

の除雪作業が漁業者の負担となっている。このため、船揚場に防雪施設整備を実施し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。

(湖北地区)

イワシ旋網船の休けい岸壁が不足しており、漁期が重複するサンマ棒受網船の休けい利用と輻輳している。このため、-5.0m 岸壁及び-5.0m 泊地を-5.5m に増深することで、イワシ旋網船用の休けい岸壁を確保し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。

(門静地区)

利用隻数の増加及び漁船の大型化に伴い、既設船揚場は狭隘なため、前浜を利用して上下架作業を行っており、非効率な作業となっている。このため、船揚場等を整備し、漁業活動の安全性・効率性の向上を図る。



厚岸地区整備概要 (湖内)

③国内外への安定的な水産物供給体制の確保 (湖内地区)

湖内の土砂が岸側に移入しているため、船外機船の出入港に必要な水深が確保されていない。このため、航路を整備し、必要水深を確保することで、安定的な水産物供給体制の確保を図る。

(門静地区)

漂砂により泊地が埋没し、水深不足のため漁船は低速で慎重な航行を余儀なくされ、漁業活動に支障を来している。このため、防砂堤等を整備し、安定的な水産物供給体制の確保を図る。

3) 主要工事計画

- ・ -5.5m 航路(湖南)113,000m²、船揚場(改良)(湖南)381.0m、-4.0m 岸壁(改良)(湖北)200.0m、-1.5m 物揚場(湖内)370.0m、船揚場(門静)60.0m ほか
- ・ 計画事業費：9,122 百万円
- ・ 事業期間：令和3年度～令和12年



厚岸地区整備概要 (門静)

第64回(令和2年度)北海道開発技術研究発表会 受賞論文(港湾部門)の概要について

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課

第64回(令和2年度)北海道開発技術研究発表会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、聴講は全国土木施工管理技士会連合会の継続学習(CPDS)プログラムを希望する方に限るものとし、令和3年2月15日から5日間にわたり、Web配信で開催されました。自由課題6カテゴリー185論文の発表が行われ、うち14件が港湾・空港・漁港部門の発表が行われました。

これらの論文の中から、創造性、将来の発展性、テーマ性、研究努力及びプレゼンテーションなどの観点から

ら北海道開発局長賞及び奨励賞、寒地土木研究所長賞、北海道開発協会長賞及び奨励賞が選出されました。そのうち、港湾部門(港湾・漁港・空港事業関連)からは各賞あわせて6件が受賞されましたので、研究課題と発表者(所属は発表当時)をご紹介します。

【北海道開発局長賞 受賞論文】

研究課題 推進(推-16)

カルシア改質土を用いた防波堤背後盛土の施工について一函館港若松地区泊地浚渫工事を例として一

発表者

函館開発建設部函館港湾事務所	田邊 翔
同上	櫻井 博孝
同上	林 誉命

概要

函館港若松地区において、クルーズ船受入のための泊地浚渫で発生した土砂をカルシア改質材で改良し(カルシア改質土)、西防波堤の老朽化対策として背後盛土を造成する工事を行っている。

本論では、寒冷海域でのカルシア改質土の大規模施工により得られた各測定データを基に、一軸圧縮強さの出現特性など、カルシア改質土の特性を整理し、施工管理や品質管理における課題と対応について報告するものである。



田邊技官(現・江差港)へ
増田江差港湾事務所長から局長賞を贈呈

【寒地土木研究所長賞 受賞論文】

研究課題 推進(推-20)

沖合域での漁場環境モニタリング手法の構築に向けた衛星通信による遠隔観測の試み

発表者

(国研)寒地土木研究所水産土木チーム	須藤 賢哉
同上	稲葉 信晴
同上	渡邊 浩二

概要

地球温暖化等の影響により漁場環境が大きく変化する中、日本の漁業生産量の約半分を占める沖合漁業の持続的な発展を目指した漁場整備と資源管理が求められている。資源回復のための沖合域での漁場整備が進められる中、漁場整備効果の把握や漁場環境モニタリング手法は十分に確立されていない。

本論では、水深90m以深の沖合人工魚礁での現地観測に基づき、漁場環境モニタリング手法の構築を目的とした衛星通信による遠隔観測の結果について報告する。

【北海道開発協会長賞 受賞論文】

研究課題 産業(産-11)

厚岸漁港衛生管理対策施設の整備について
—事業実施にあたり発生した課題と対応策—

発表者

釧路開発建設部釧路港湾事務所	嶋崎 皓輝
同上	金本 浩之
同上	山内 弘明

概要

厚岸漁港は、主要魚種であるサンマ・カキを中心に、多種多様な水産物を道内外へ供給するための拠点として重要な役割を担っている。

当漁港での水産物陸揚げは、衛生面や狭隘化が課題となっていたことから、これらに対応すべく、湖南地区第2埠頭に新たに衛生管理対策施設を整備し、令和2年8月より供用が開始されている。

本論は、衛生管理対策施設を整備する際に発生した課題と対応策について報告するものである。

【北海道開発局長奨励賞 受賞論文】

研究課題 産業(産-9)

ウトロ漁港知床岬地区における-4.0m岸壁の設計・施工について

発表者

網走開発建設部網走港湾事務所	川口 拓也
同上	佐々木 智之
同上	佐々木 淳

研究課題 産業(産-12)

漁港漁場整備事業における衛生管理対策が魚価向上に与える効果

発表者

株式会社建設技術研究所	中園 大介
農業水産部水産課	菅原 吉浩
株式会社建設技術研究所	牛木 賢司

【北海道開発協会長奨励賞 受賞論文】

研究課題 推進(推-19)

ナマコ生息環境に配慮した漁港施設の検討について
—苫前漁港におけるケーススタディ(中間報告)—

発表者

留萌開発建設部築港課	落野 憲人
留萌開発建設部留萌港湾事務所	中島 秀行
北日本港湾コンサルタント株式会社	清野 克徳